

平成23年5月13日

第2回会合における主な議論（論点）

【国際競争力強化に関する意見】

1. 我々はどのような国際競争力を目指すのかを考える必要がある。成功している海外他社のマネをして身につけた競争力が数年後には世の中が求めるものと合わなくなり、失敗になることもある。あれはあれ、これはこれ、と分けて考えて目指すべきものを検討すべき。
2. 研究開発における我が国の国際競争力強化とは、海外に比べて優れた研究成果を出すことで国力を増すという意味だが、現時点ではそれに向けた「方策」が分からない。
3. 産業全般に言えることかもしれないが、企業間の縦割りの弊害として国内企業間での競争となってしまうっており、海外にアピールができていない状況。組織の壁を越えて国内企業間で研究開発を協力して海外に積極的にアピールしていくような仕組みを政府も間に入って実現すべき。
4. ICTの研究開発が日本国内だけで閉じてしまっており、国際標準化が進まないことや、海外から資金が入ってこない状況となっているため、海外に開かれた研究開発制度が必要。
5. ICT分野においては標準化が重要であるため、国際標準化を見据えた研究開発が必要。
6. 国際競争力強化というミッションが、民間だけでなく大学や国研にも広がってきており学術研究にも影響を与えている。

【長期的・総合的な研究開発の必要性、人材育成に関する意見】

7. ICTが世の中に浸透しているのはよいが、研究開発が軽く見られてしまっている節もある。研究開発というものは、本来は人材育成の観点も踏まえて崇高なものであるべき。流行や目先を追うことが最近の研究開発になってしまっているのではないか。
8. 研究開発は必ずしも勝った負けたで判断できるものでもない。人材育成を含めて総合的に考えていくべき。
9. 我が国の国際競争力強化のためには、人材育成を含めた研究開発の総合力を向上させることが必要。研究開発成果をすぐにビジネスにつなげるのも

大事であるが、人材育成を含めた長期的な視点も必要。

【研究開発すべきターゲットに関するもの】

10. ICTを構成するレイヤのどの部分で我が国の強みを持つかをはじめに定義し、研究開発を進めるべき。
11. NICTのレーダー観測技術に代表される大学や民間が行っていない分野の研究開発については網羅的にやるという点で非常に重要であり、引き続き頑張るべき。
12. 日本のテレビのインターネット接続率が低い理由としてはテレビとネットの情報コンセントとの物理的距離が遠いことが挙げられる。テレビを簡単にネット接続できる技術の技術開発があると利用者に親切。（他方、テレビがネットにつながれていない理由はユーザーにとり魅力的な技術仕様やサービス内容になっていないからではないか、とのご意見も頂いた。）

【研究開発の評価や説明責任に関する意見】

13. 国による研究開発では必ずしもビジネスに直結しないという技術があることは理解できるが、どれだけの予算を使って、どのような成果が出たかといった評価がきちんとなされる必要がある。また、国の予算を使っての研究開発のためプライオリティ付けも重要。
14. 研究開発に際して出口の事業化までを視野に入れるべきとの意見は良いこと。評価・検証が非常に重要であり、最終的なアウトカムを見据えた研究開発が必要。

【その他の議論】

15. 研究開発に際しては中小企業・ベンチャーにも目を向けることが重要。事業を止めさせる仕分けが目立つが、見込みがある事業に対しては逆に応援するための仕分けも必要。
16. テレビのインターネット接続についてはアメリカやヨーロッパが先行して進んでいるが、日本では著作権等の制度的な問題で進んでいない状況。研究開発そのものだけでなく、研究開発成果を日常生活に活かすための制度改革や環境づくりについても議論すべき。
17. 競争的資金制度のSCOPEの領域設定について、情報系の研究開発は殆ど実用化フェーズにある技術課題が並んでおり、新たな技術については入っていないのではないかと。